

サマースクールのお知らせ！

大昔のべつかい 土器づくり・まが玉作りに挑戦しよう！

古代の人々は、粘土で作った土器で食事を作ったり、石で作った勾玉を身に付けていました。そこには、たくさんの生活の知恵が込められ、苦労もありました。古代の人々の生活に挑戦し、その知恵と工夫を学んでみませんか。



1. 古代人に挑戦しよう・土器づくり編

日時 平成30年8月2日(木) 13:30~16:00

内容 ①お話 大昔のべつかい ②体験活動 土器づくり

2. 古代人に挑戦しよう・土器焼き・勾玉づくり編

日時 平成30年8月15日(水) 9:30~12:00

内容 ①体験活動 土器を焼こう ②体験活動 勾玉をつくろう

場所 別海町郷土資料館

3. 対象者及び募集人員 小学生以上15名(親子参加可)

4. 参加申込 7月31日(火)までに、電話・FAX・メールのいずれかで、お名前・電話番号をお知らせください。



所蔵資料から振り返る！北海道150年、別海町のあゆみ その2 北海道の名付け親 松浦武四郎とは？

今年、北海道と命名されて150年ということで、道内では様々な事業が実施されています。その中で、キーパーソンとなっているのが、北海道の名付け親と言われる松浦武四郎(以下、武四郎)で、北海道史の中では、欠かすことの出来ない人物です。別海町にも縁が深く、当館も武四郎の貴重な資料を所蔵しています。どのような人物だったのか？どんな関係があるのか？など紹介したいと思います。

●武四郎の生涯

文化15年(1818)に伊勢国一志郡須川村(三重県松阪市小野江町)に生まれ、17歳で日本全国の旅に出ました。蝦夷地へは、弘化2年(1845)から安政5年(1858)にかけて6回にわたり踏査し、膨大な蝦夷日誌と蝦夷図をまとめて、蝦夷地の内陸部の実態を明らかにしました。



松浦武四郎(松浦武四郎記念館蔵)

調査の中でアイヌ民族の実態を知り、彼らを悲惨な状態に追いやった場所請負制や松前藩、幕吏への批判を強めていきました。

明治2年(1869)開拓判官に任ぜられ北海道の名付親ともなりました。翌年3月退官し、明治21年(1888)東京の自宅でこの世を去りました。

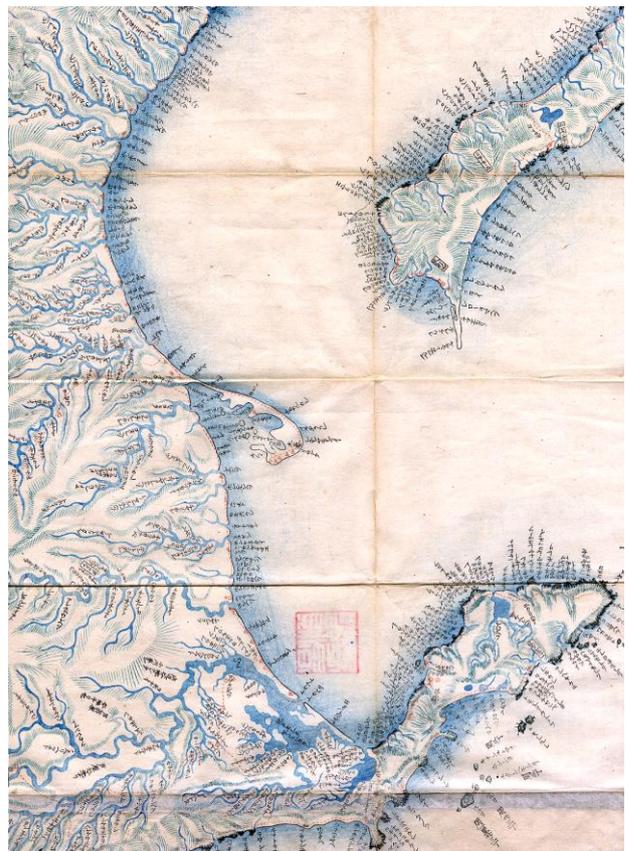
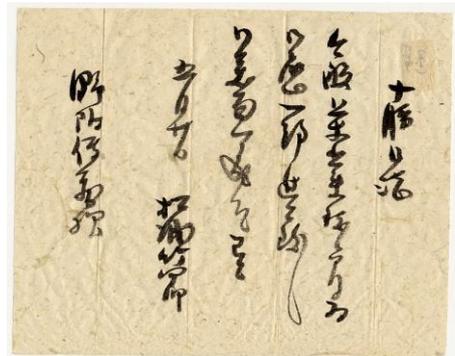
●加賀家文書を書き残した加賀伝蔵との出会い

武四郎の蝦夷地6航 安政5年(1858)の記録に、当時野付半島先端の野付通行屋で働いていた加賀伝蔵が出て来ます。『知床日誌』には、ヲン子ニクルの畑のことや、知床への探査の旅へ向かうため、土地に詳しいアイヌを伝蔵にお願いしていることが紹介されています。また、『近世蝦夷人物誌』には、伝蔵に農耕を勧めた茶右衛門のことも紹介されています。

武四郎から伝蔵への手紙によると、伝蔵が蝦夷地の産物を送ると、武四郎は、当時出版中の著作物を数多く贈っています。また、アイヌ民族の保護を伝蔵にお願いしていたことなども分かり、交流が深かったことが伺えます。

来月号は、武四郎が記録した別海町や当館が所蔵している資料にどんなことが書かれているのか、紹介したいと思います。

※右の写真は、武四郎から加賀伝蔵へ送られた書簡や出版物。



平成30年度特別展 第1期間

「松浦武四郎が見た根室管内と北方領土の様子」

●期間 平成30年9月9日(日)～16日(日)

●場所 別海町図書館

●時間 10:00～18:00(日10:00～16:00)

※9月10日(月)休館日

加賀家文書歴史講座(特別展関連講座)

●日時 平成30年9月16日(日)

10:00～12:00

●場所 別海町図書館・加賀家文書館

●内容 松浦武四郎の資料を見よう!

別海町郷土資料館だより No.228

発行日 平成30年7月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802(FAX兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

北海道命名150年、その名付け親松浦武四郎生誕200年の年です。特に関係はないのですが、私と武四郎は150歳年齢が違います。徒歩・船などで北海道を探検し記録を残す大変なことであったと思います。そんな資料を生かしていきたいと考えます。(K.I)